




東北大学大学院 2025年度入学者用 大学院案内

# 文学研究科

Tohoku University Graduate School of Arts And Letters

文学だ。  
生きることは、

日本学 

広域文化学 

総合人間学 





# 生きることは、 文学だ。

## はじめに



文学研究科長 **木村 敏明**

1965年神奈川県生まれ  
東北大学大学院文学研究科教授。  
専門は宗教学・宗教学人類学でインドネシア・スマトラ島を  
主なフィールドとして研究に従事。  
2023年度より文学部長・文学研究科長。

「人間とは何か」について、学部での研究を超えてさらに深く遠く探究してみたいとお考えのみなさん。なぜ東北大学文学研究科に進学すべきなのでしょう。

東北大学文学研究科の特徴の一つとして、専攻分野（研究室）における研究指導があります。文学研究科では26の多様な研究分野について、それぞれのエキスパートである教員たちの指導のもとに同分野の研究を志す学生たちが集う「研究室」制度をとっています。研究方向の近い仲間たちとのディスカッションはきっと今まで以上に研究する喜びをあたえてくれるでしょう。

また、国際的な研究環境も自慢の一つです。文学研究科には世界各国からの留学生が在籍し、また多くの日本人学生が欧米やアジアを中心とした各地の交換留学プログラムに参加しています。日本学国際共同大学院プログラムでは、海外大学の日本研究者との連携のもと、これまでなかった国際的日本学の研究と教育を行っています。

総合大学というメリットを活用した学際的な研究の場も充実しています。文学研究科では「未来型医療創造卓越大学院プログラム」「人工知能エレクトロニクス卓越大学院プログラム」「変動地球科学卓越大学院プログラム」といった学位プログラムに参画しており、これらに採用されれば文学研究科での学びに加え、文系と理系の壁もこえ、医学・工学・理学・情報科学など多様な研究科の学生が集い、ともに研鑽できる場が用意されています。

「生きる」とは、何か。  
生きているということは、  
前に進むこと。  
生きているということは、  
死につつあるということ。  
その物語を、行動を、考察を、  
知に裏打ちされた言葉で  
考える。  
かつて生きた人間たちの声に  
耳を傾け、  
時を超えて分かち合う。  
それが生きるということであり、  
文学を学ぶことなのだ。  
どんなに科学技術が進歩しても、  
解決することが難しい  
問いがある。  
その根源的な問題を巡る旅に、  
出かけよう。

## 入学について

### ■ 多様な選抜方法

本研究科では、29の専攻分野(博士課程前期・博士課程後期)について、「一般選抜」及び「社会人特別選抜」の学生募集を夏期と冬期の2回行っています(博士課程後期の一般選抜募集は冬期のみ)。前期課程については、令和6年度入試から科目編成の見直しを行い、一部の専攻分野では試験科目の削減も行われましたので、ウェブサイトの募集要項で詳細をご確認ください。

### ■ 他大学院修了生の受け入れ

本研究科以外の大学院で修士課程や博士課程前期を修了し、修士の学位を授与された学生を博士課程後期に受け入れ、博士(文学)の学位取得のため適切な教育・指導を行っています。

### ■ 社会人、外国人留学生の受け入れ

社会人が、高度の専門性、専門知識を取得することを支援するために、社会人を積極的に受け入れています。

博士課程後期「社会人研究者コース」は、すでに研究歴を有する社会人を対象にその研究活動を支援するため在職のまま博士(文学)の学位を取得できるように設けたコースです。

また、外国人留学生も積極的に受け入れており、様々な国・地域出身の多くの留学生が学位取得を目指して学んでいます。

令和5年度からは、英語のみで学位を取得できるIGSAL(国際大学院コース)を開設しています。

## 修学・研究を支援する様々な制度

### ■ 後期課程における早期修了

既に一定の研究歴を持つ社会人研究者コース学生などが、大学院後期課程入学後に優れた研究業績をあげたと認められる場合、最短1年で課程修了することができます。

### ■ 学際高等研究教育院の「研究教育院生」

東北大学には、異分野を融合した新しい研究分野で、卓越した知識と創造的な「総合知」の素養をもつワールド・クラスの若手研究者の養成を支援する研究科横断的な組織「学際高等研究教育院」があります。文学研究科の大学院生も、所定の条件を満たし審査に合格すれば、文学研究科に在籍したまま、「修士・博士研究教育院生」として奨学金を受給し各種の支援を受けることができます。

### ■ 長期履修制度

職業を有している、あるいは出産・育児・介護で時間を必要とする等の事由のある学生は、入学時の申請によって、標準年限を超える期間を修学期間として設定することができます。これを許可された「長期履修学生」は、授業料の加増なしに、前期課程は4年、後期課程は6年を上限とする期間において、計画的な履修ができます。

### ■ 後期課程学生への経済支援制度

本研究科では、優秀な学生を対象に経済的負担・不安を軽減し、修学に専念できる環境を提供するため、後期課程学生を対象に「東北大学高等大学院博士後期課程学生挑戦的研究支援プロジェクト」など様々な経済支援を行っています。支援内容は今後も拡充していきますので、詳細はウェブサイト等でご確認ください。



## 文学研究科の教育方針

文学研究科における専門研究は、人文学・社会科学と呼ばれる分野に関わるものです。その研究対象や方法論はきわめて多彩で、文献や史料の読解を基盤とする人文諸学・歴史学から、調査や実験をもとに実証科学的な研究を行う分野まで広範囲をカバーしていますが、そこには、「人間とはいかなる存在か」を探究するという明確な共通テーマが存在します。

今日、高度産業技術が社会を急速に変容させてゆく中で人類は多くの困難な問題と直面し、その解決を模索する過程で、人文学・社会科学の知識や発想法の助けが強く求められるようになりました。複雑に絡み合った価値意識や世界観を読みほどこき、何がわれわれにとってよりよい状態つまり幸福(Well-being)であるのかを見定めるために、「人間」のあり様を多面的かつ繊細に理解する「知」が必要となるからです。

文学研究科は、このような要請に応えるために、各分野の最先端の理論的・実践的研究を推進し、かつそれを基盤とした高度な教育を行います。それにより「人間」への深い理解と洞察力を持って社会の健全な発展に寄与することのできる教養ある専門職業人(各職域で豊かな知識と教養を活かして活躍する人財)、および

人文学・社会科学の知的遺産を確実に継承し、これを創造的に発展させることのできる高度な専門性を具えた職業人(各職域で自らの専門性を駆使して先導的な役割を担う人財)さらには研究者を養成します。

こうした人財は、各専門分野における先端的研究にコミットするだけでなく、分野や地域の枠にとらわれず、広い視野から自らの学問領域の意義を見定め、人類の発展にとって「知」がどう寄与するのかを常に反省的に捉える賢明さを持たなければなりません。このため、文学研究科においては、分野横断的な教育を通じた柔軟かつ批判的な思考力の育成を重要な課題とします。

国際的な人の流動化や人口構成の変化を反映して、人文学・社会科学を学ぶとする学生の多様化も進んでいます。文学研究科は、日本人学生と留学生の共修的環境を整備し、社会人の再教育ニーズに積極的に対応することで、多様な学生がそれぞれの目標に沿って自らの修学を完遂できるよう取り組んでいきます。それを通じて、「人間」と人間が作り出す「社会」の本質について深い洞察力を持ち、寛容な精神と柔軟な発想のもとで人類社会の持続的発展に貢献できる人財を養成することが、本研究科の教育目標です。

## 文学研究科の研究方針

日本学、広域文化学、総合人間学の三専攻からなる文学研究科は、「人間」と人間が作り出す「社会」のあり様を理論的かつ実践的に探究しますが、いずれの専攻も、基礎研究の継続的展開、学際的・国際的な先端研究の推進、成果の社会的還元という目的を共有しています。

まず、人文学・社会科学の各分野には、歴史的に積み上げられてきた長い研究の伝統があります。これを適切に継承しつつ、長期的視点のもとで基礎研究を継承・発展させること、また研究成果や研究資料の体系的な保存・整備に意を用いることが重要です。

同時に、時代の変化の中で生まれる課題に目を向けて新たな学問分野を開拓すること、国際的な研究拠点を構築し学際的・先端的な共同研究を推進することが求められます。そして、研究を通じて得られた成果を広く社会に還元し、人類社会の持続的発展に寄与することが、文学研究科の基本的使命です。

三つの専攻それぞれは、およそ次のような研究目標を持っています。

日本学専攻では、言語・思想・文学・歴史・社会という各領域においてそれぞれの研究伝統を継承し深化・発展させるとともに、分野相互の連携や海外との研究交流を深め、広い視野から先端的な日本研究を推進します。

広域文化学では、文献や調査に基づく学術性の高い地域研究を通じて、グローバル化する社会に必要な堅実な知識を提供すると同時に、域際的な文化論の観点を導入することで積極的な社会連携の可能性を広げます。

総合人間学専攻では、原理論的研究と実証科学的な研究を有機的に総合し、かつ自然科学との分野融合にも積極的にコミットすることで、人間社会のあるべき姿について信頼度の高い提案を行うことのできる実践的学問を創出します。



# 教育研究組織(現在)

(令和6年5月1日現在)

専攻名	講座名	専攻分野名	担当教員名
日本文学	日本文学	現代日本文学	教授/田中 重人 准教授/茂木 謙之介 助教/西原 志保 准教授/赤井 紀美
		日本思想史	教授/片岡 龍 准教授/引野 亨輔
	日本語科学	日本語学	教授/大木 一夫 准教授/中西 太郎 教授/甲田 直美
		日本語教育学	教授/小河原 義朗 准教授/島崎 薫 助教/大西 由美
	日本文学	日本文学	教授/佐倉 由泰 准教授/仁平 政人 教授/横溝 博
	日本歴史学	日本史	教授/柳原 敏昭 助教/栗原 伸一郎 教授/安達 宏昭 教授/堀 裕 教授/籠橋 俊光
		考古学	教授/鹿又 喜隆 准教授/松本 圭太
	[協力教員]	日本史	教授/加藤 諭
	[協力教員]	考古学	教授/藤澤 敦 教授/佐野 勝宏
	[連携分野]	文化財科学	
広域文化学	域際文化学	文化人類学	教授/川口 幸大 准教授/越智 郁乃 助教/包 双月
		宗教学	教授/木村 敏明 准教授/間芝 志保 助教/阿部 友紀 教授/谷山 洋三 助教/井川 裕寛
		死生学・実践宗教学	教授/高橋 原
		インド学仏教史	教授/桜井 宗信 助教/渡辺 亮 教授/西村 直子
	東洋文化学	中国語学中国文学	教授/矢田 尚子 准教授/張 佩茹 助教/菅原 尚樹 教授/土屋 育子
		中国思想中国哲学	教授/齋藤 智寛
		東洋史	教授/大野 晃嗣 准教授/渡邊 英幸 助教/陳 穎
	西洋文化学	英文学	教授/大河内 昌 教授/大貫 隆史 教授/ティンク ジェイムズ マイケル
		英語学	教授/島 越郎 准教授/中村 太一
		ドイツ語学ドイツ文学	教授/嶋崎 啓 助手/清水 翔太 教授/ナロック ハイコ
		フランス語学フランス文学	教授/今井 勉 教授/メヴェル ヤン エリック 教授/黒岩 卓
		西洋史	教授/有光 秀行 教授/浅岡 善治
	[協力教員]	西洋史	教授(東北アジア研究センター)/寺山 恭輔
	総合人間学	哲学倫理学	哲学
倫理学			教授/村山 達也 准教授/小松原 織香
芸術人間学		東洋・日本美術史	教授/長岡 龍作 助教/濱住 真有 教授/杉本 欣久
		美学・西洋美術史	教授/足達 薫 准教授/ローレンツォ マリヌッチ 助教/瀬戸 はるか
心理言語人間学		心理学	教授/阿部 恒之 准教授/荒井 崇史 助教/ラエフスキー アレクサンドル 教授/坂井 信之 准教授/河地 庸介 教授/辻本 昌弘 教授/大森 美香 (お茶の水女子大学)
		言語学	教授/小泉 政利 准教授/木山 幸子 助教/加藤 万紀子 准教授/内藤 真帆
社会人間学		社会学	教授/永井 彰 准教授/青木 聡子 教授/小松 丈晃 教授/田代 志門
		行動科学	教授/浜田 宏 准教授/小川 和孝 助教/佐崎 愛
		計算人文社会学	教授(兼)/浜田 宏 准教授/呂 沢宇
国際交流室			助教/コピローワ オーリガ
コンピュータ室		助教/森川 多聞	

教員の自己紹介については「教員のよこがお」(<http://www.sal.tohoku.ac.jp/staff/index.html>)を  
研究活動の詳細については「東北大学研究者紹介」(<https://www.r-info.tohoku.ac.jp>)をご覧ください。

# Campus Life

充実した学生生活を送る  
機会に満ちています



文学部・文学研究科



文科系総合講義棟



附属図書館本館

文学研究科の学生は、研究室に所属して自分の研究を進めます。文学研究科の強みは、研究室を通じた研究・教育にあります。研究室の教員や他の学生と日ごろ気軽に議論をすることができ、そこから新しいアイデアが生まれます。

附属図書館も魅力的です。文学研究科に隣接する附属図書館本館は国内有数の蔵書を誇っています。300万冊近い和漢洋書があり、雑誌は和洋あわせて4万種以上あります。狩野文庫や漱石文庫などの特殊文庫や貴重図書も、附属図書館の宝です。また現在の研究では不可欠の、電子ジャーナルやデータベースも充実していて、学内からアクセスすることができ、活用のための講習会も随時開かれています。詳しくは附属図書館のホームページをご覧ください。

研究室や附属図書館での研究に疲れたら、カフェで一休みするのもいいでしょう。川内キャンパスには、モーツァルト・クレーズ・コーヒー、bush clover cafe、Bee ARENA Cafeという3つのおしゃれなカフェがあります。

他の研究室や学部・研究科の学生と会いたかったら、コモンスペースに行きましょう。まさに「共通の場所」で、いろいろな研究室や学部・研究科の学生が、国籍を越えて、議論したり談笑したりしています。

息抜きのために仙台の街を散歩するのもいいですね。杜の都と言われるほど緑の多い街で、春の桜、初夏の緑、秋の紅葉、冬の澄んだ青空と、四季を通じた美しい自然と、近代的な街並みの調和を楽しむことができます。また青葉まつり、仙台七夕、光のページェントなど、さまざまなお祭りがあることも仙台の魅力です。2015年12月に仙台地下鉄東西線が開通したので、キャンパスのある川内駅から仙台の街中まで、わずか5-6分で着きます。

皆さんも川内キャンパスで、そして仙台の街で、一生の思い出に残る学生生活を送ってみませんか？

## ■ 主な関連特殊文庫

文庫名等	旧蔵者	冊数	分野
阿部文庫	阿部 次郎	5,190冊	日本文化全般
石津文庫	石津 照璽	4,773冊	宗教哲学
伊東文庫	伊東 信雄	4,526冊	考古学・歴史学
大類文庫	大類 伸	946冊	西洋史
狩野文庫	狩野 亨吉	108,000冊	和漢古典中心全分野
河野文庫	河野 与一	1,108冊	古典学
児島文庫	児島 喜久雄	1,494冊	西洋美術史
漱石文庫	夏目 漱石	3,068冊	英文学。書入
晩翠文庫	土井 晩翠	2,624冊	西洋詩関係。書入
ケーベル文庫	Raphael von Koeber	1,999冊	西洋哲学
ヴント文庫	Wilhelm Wundt	15,840冊	心理学中心
西蔵大蔵経	多田 等観	6,652冊	チベット学
金谷文庫	金谷 治	5,252冊	中国思想・哲学



## 履修方法等

博士課程 前期		博士課程 後期 (博士論文執筆の要件) 最低2篇以上の論文を学術雑誌に公表する		
<b>1年次</b>	<b>2年次</b>	<b>1年次</b>	<b>2年次</b>	<b>3年次</b>
<p>1年次は主として<b>授業に専念</b></p> <p>課題や演習を通して研究テーマを絞り込む。</p> <p>4月中旬 研究題目届提出</p>	<p>2年次は<b>修士論文・修士研究の完成に力点をおく</b></p> <p>各専攻分野での構想発表会、中間報告会などで、修士論文・修士研究の進捗状況を報告する。</p> <p>10月 修士論文・修士研究題目届提出 1月上旬 修士論文・修士研究提出期限論文審査教員の決定 2月 修士論文口頭試問 3月上旬 修了判定 3月下旬 学位授与</p>	<p>博士論文特別研修にて研究指導を受け、修士論文などをもとに、学術雑誌に論文を発表する。</p> <p>4月 主たる指導教員の決定 4月中旬 研究題目届提出 7月中旬 博士論文作成計画書I提出 学年末 研究現状報告の提出</p>	<p>修士論文によるものを含めて2篇以上の論文を学術雑誌に発表する。</p> <p>7月末 博士論文作成計画書II提出 1月末 中間論文の提出</p>	<p>構想発表会等を経て、博士論文を執筆する。</p> <p>12月上旬 博士論文題目等調査書提出 1月上旬 博士論文提出 1月上旬 博士論文審査委員会の設置 2月ごろ 博士論文審査 3月下旬 学位授与</p>

## 免許

### ・教育職員免許状

一定の条件を満たしている場合、所定の科目を履修することにより、中学校教諭専修免許(国語、社会、英語、宗教)および高等学校教諭専修免許(国語、地理歴史、公民、英語、宗教)を取得することができます。

### ■ アーキビスト

アーキビストとは、国や自治体が設置する公文書館をはじめとするアーカイブズにおいて働く専門職員のことです。

本研究科の「認証アーキビスト養成コース」に登録し、所定の授業科目の単位を修得することにより、認証アーキビストの申請の一つである「1号申請」の「大学院での一定の単位修得」の要件を満たすことができます。

認証アーキビストの詳細については以下をご覧ください。  
<http://www.archives.go.jp/ninsho/aboutCAJ/>

### ■ スピリチュアルケア師

スピリチュアルケア師とは、医療・福祉・教育・産業をはじめとする諸分野で、多職種との連携(ケアチーム)の中で、責任をもってスピリチュアルケア領域の専門性を担う人材です。

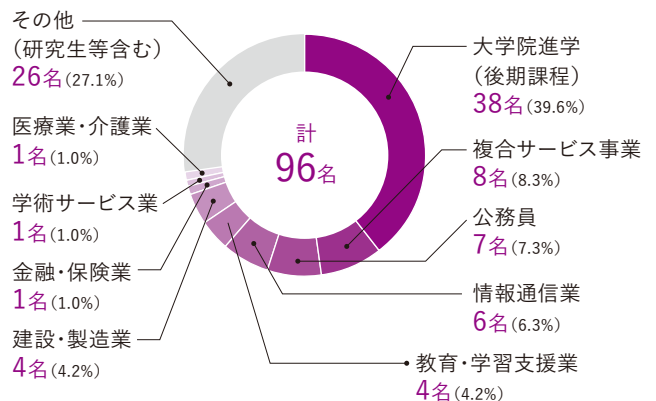
本研究科の死生学・実践宗教学専攻分野は、日本スピリチュアルケア学会の「認定教育プログラム」の提供団体として承認を受けています。死生学・実践宗教学専攻分野に所属してこれを修了することによって、日本スピリチュアルケア学会による資格審査を受験することができます。

## 奨学制度

日本学生支援機構の奨学金貸与、日本学術振興会のPD及びDC特別研究員などの制度を利用することができます。また、学内の措置として、教育補助業務等により、学部教育の充実を図るとともに、大学院学生に対して指導者としての機会を提供しようとするティーチング・アシスタント(TA)や博士後期課程の学生を対象に研究科内のプロジェクト等に参加させることにより研究体制を強化すると同時に若手研究者の育成等を図るためのリサーチ・アシスタント(RA)制度があります。

## 進路

### ■ 2023年度博士前期課程修了者の進路状況

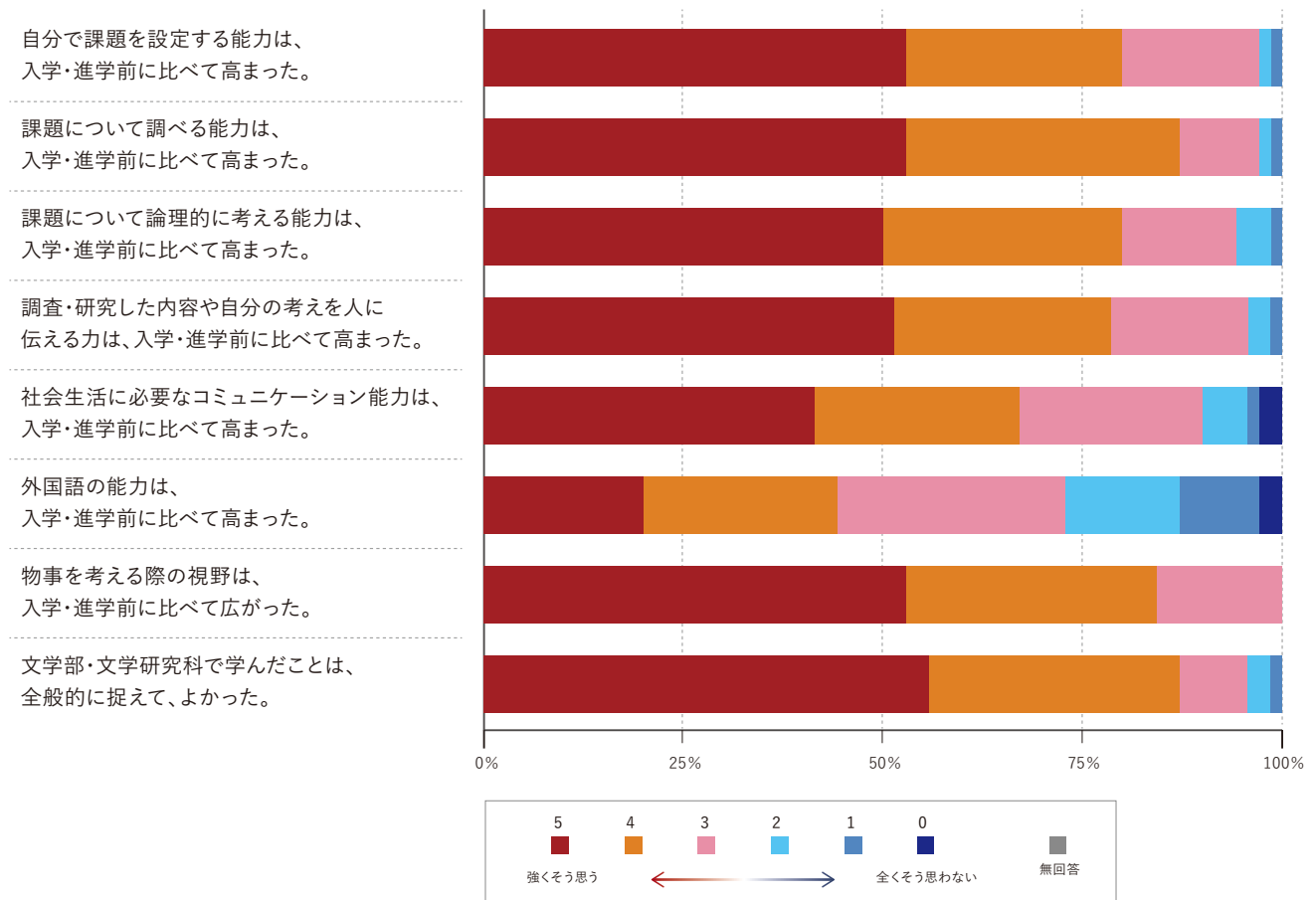


### ■ 主な就職先

- 国立国会図書館
- 兵庫県教育委員会
- にかほ市役所
- 石巻市役所
- ふじみ野市役所
- 千葉市美術館
- 独立行政法人国際交流基金
- 高エネルギー加速器研究機構
- 株式会社河北新報社
- 株式会社クボタ
- 株式会社ケンブリッジ・テクノロジーパートナーズ
- 株式会社ブロードバンドセキュリティ
- アクセンチュア株式会社
- 日鉄ソリューションズ株式会社
- ブルデンシャル生命保険株式会社
- サポート行政書士法人
- 日本医療介護センター
- 円福寺

## 文学研究科修士の教育効果に関する調査結果

※本調査は、前期課程、後期課程、論文博士の回答を合算し、「大学院学生」として集計しております。

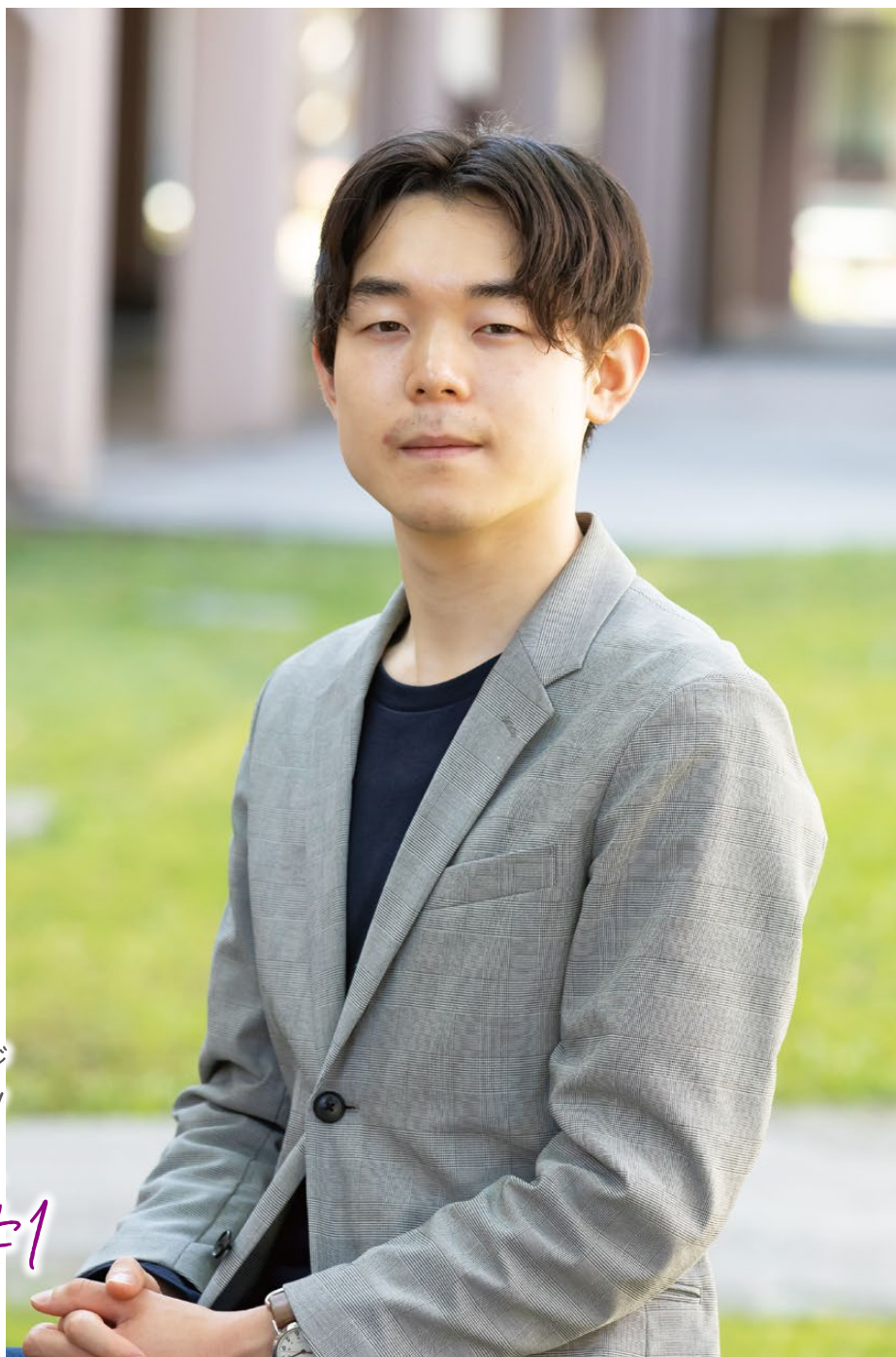


## 2023年度修士の論文題目(課程博士)

フッソールの現象的な志向性論	現代日本語の丁寧形と普通形
ゲオルク・ビュヒマン『翼のある言葉』初期の編集史	南北朝・室町期陸奥国における国人と上部権力
The direction where the walls lead Observations on the Meaning of Defensive Masonry Architecture The Mediterranean World and The Japanese Archipelago (壁が続く方向 防御的な石積み建築の意味に関する考察 地中海世界と日本列島)	神経細胞仮説によるスピリチュアルケアの新理解 —心理実験による実証— 蘇軾文学研究—詠雨詩詞を中心に—
日常生活における「人間配慮」と中井履軒の儒教思想の研究	Virginia Woolf: Society, Community, and the Novel (ヴァージニア・ウルフ—サエティ、コミュニティ、小説)
現代日本語補助動詞における文法派生の研究	On Labeling: Implications for Movement (ラベル付けについて: 移動への帰結)
自由主義派代議士と戦時期日本の政治参加	Sympathetic Rebels: Resistance under China's Information Censorship Apparatus (共感からなる反抗: 中国における情報検閲下の反抗活動)
Nagai Kafū and Edo Taste (永井荷風と江戸趣味)	
中世伊勢神道の生命と世界 —生と死、魂魄と神々をめぐる中世的理解—	就労における男女格差: 労働需要側に影響を与える文化的信念、地位に基づく理論枠組みから
本居宣長と平田篤胤の神話解釈に関する研究 —創造される皇国の心性とコスモロジー—	Naming practices and inequality at marriage: Evidence from survey experiments in Japan (名前の習慣と結婚時の不平等)

現場での貴重な体験や、  
自主的な勉強会も盛ん

在学生からのメッセージ  
Message #1



日本学専攻  
日本史専攻分野

谷川 朋史 さん 博士前期課程2年  
[福島県立福島高校卒業]

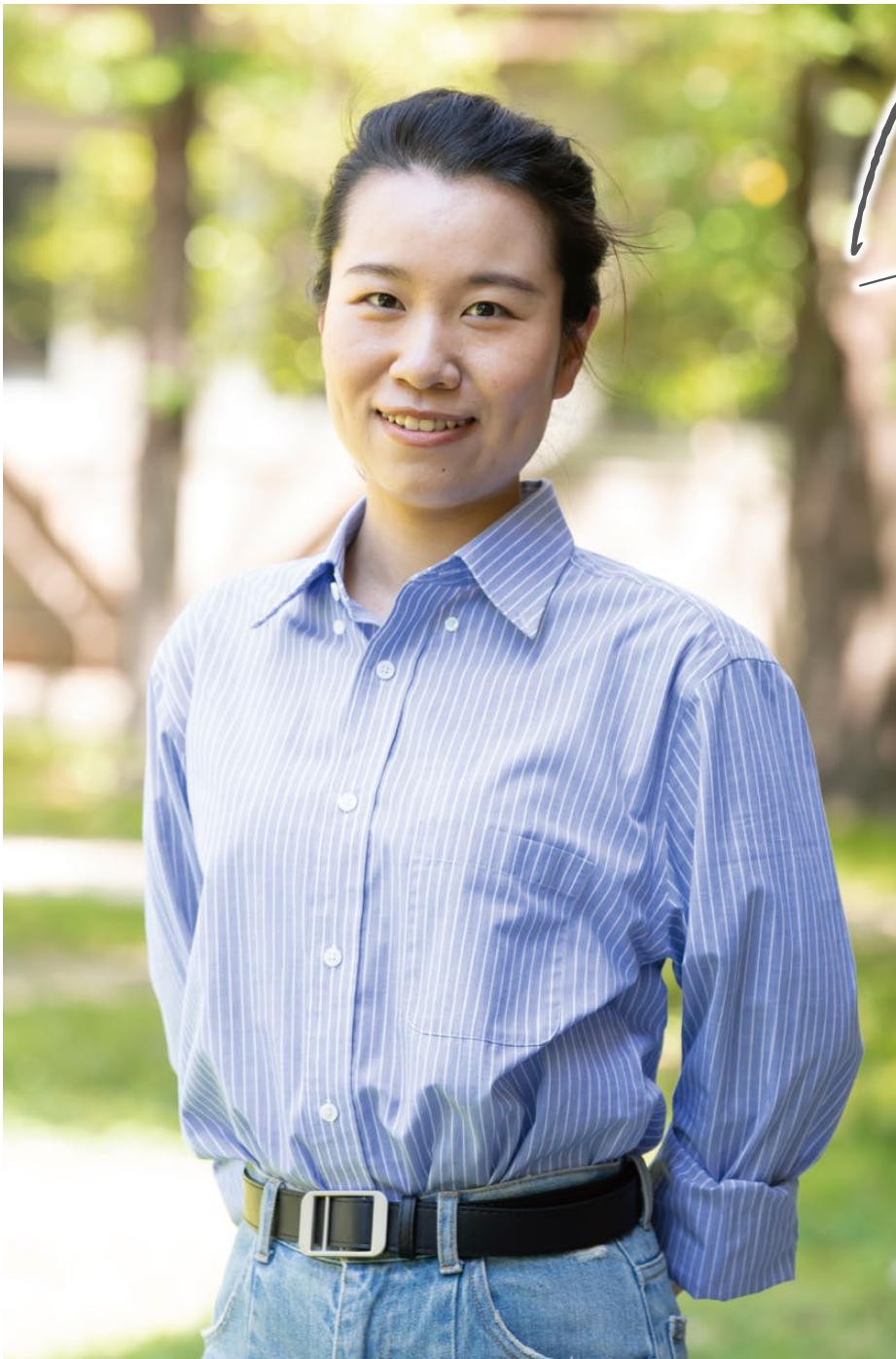


私は明治維新後の旧藩関係者が近代においてどのような活動をしていたのかを研究しています。小学生の時、地元福島の歴史として白虎隊の授業がありました。なぜ子供を戦争に駆り出した話が美談化されているのか後で疑問に思い、調べてみると旧会津藩士の歴史観が大きな影響を与えていることを知ったのが研究を始めたきっかけです。

日本史研究室は古代・中世・近世・近現代の4つの時代に分かれており、各時代を専門とする先生から手厚い指導を受けることができます。また、資料保全や公文書管理の先生方も在籍しており、歴史資料管理の現場の貴重なお話を聞くことができるのも魅力の一つです。

研究会やサークルといった学生の自主的な活動も盛んです。去年は研究室の後輩と一緒に論文の輪読会を開いたり、学部生と一緒に古文書の勉強会を開いたりしました。他にも大学史料館のアルバイトで公文書管理の現場を体験したり、旧家の史料レスキューにボランティアとして参加したりと、貴重な体験の機会に恵まれました。

東北大学で日本初の文系女子大生が誕生してから101年。あらゆる人に門戸を開いてきたこの大学院で、歴史に興味のある人もそうでない人も一緒に学んでみませんか。



在学生からのメッセージ  
Message  
#2

行事や散歩など、  
研究生生活には気分転換も大事

学部(北京科技大学(中国))を卒業してからずっと東北大学文学研究科の行動科学研究室に所属し、かなり長い期間を過ごしましたが、いつも新鮮な気持ちでいます。「新鮮な気持ちを失わない」「好奇心を持っている」「粘り強い」…これらは研究者にとって大事なことだと思いますので、常に意識して努力しています。

行動科学には整備の充実した専用の研究室があり、時間を問わず自由に行うことができるのでとても便利です。研究場所の制約が少ない専攻分野なので、図書館やカフェや家など好きな場所で研究を行うことももちろん可能です。

現在の私の研究テーマにも関係するのですが、「幸福度」や「生活満足度」を「守る」ために、どのように日々の研究と生活のバランスをとるのか、もっと工夫をしたほうがよいと考えています。普段の授業や研究以外には、お花見や芋煮会などの行事を通じて、他の研究室メンバーともコミュニケーションを取っています。文学研究科に新しいメンバーが入ることを楽しみにしています。

なお、文学研究科棟の近くには東北大学附属植物園があり、一年中景色がいいので、時間があれば散歩することが出来ます。おすすめの場所です。

### 総合人間学専攻

行動科学専攻分野

李 擎月 さん [博士後期課程3年  
[河北省沧州市第一中学卒業]



学びたいことゝに  
没頭した日々が今を支える

卒業生からのメッセージ  
Message #3



## 秋田県立大館鳳鳴高等学校

中国思想中国哲学専攻分野

堤 薫 さん 2016年度博士前期課程修了  
[秋田県立秋田高等学校卒業]



私は学部時代から東北大学文学部にお世話になりました。さらに大学院に進学しようと思った理由は「もっと漢文が読めるようになりたかったから」というものです。

周囲からは「文学部の大学院に進学して何の役に立つの？将来はどうするの？就職は？」と言われました。それらの問いに当時の私はうまく答えることができませんでした。自分自身、将来に対する漠然とした不安があったことも事実でした。しかし「将来何の役にも立たないかもしれないからこそ、今だけは思いっきり勉強したい」と思って進学を決めました。

大学院では教授や先輩方から漢籍の読み方を徹底的に教えていただきました。大学院での勉強は大変なことも多く、自分は何のために進学したのだろうと思いつつも悩むこともありましたが、今では大学院に進学して良かったと心から思います。あの頃の経験が、現在の国語教師としての私を支えています。

大学院へ進学することに関して、修了後の進路に不安を覚える人も多いたと思います。しかし、大学院で一生懸命に勉強したという経験は、必ず自分の将来につながっていくはずですよ。

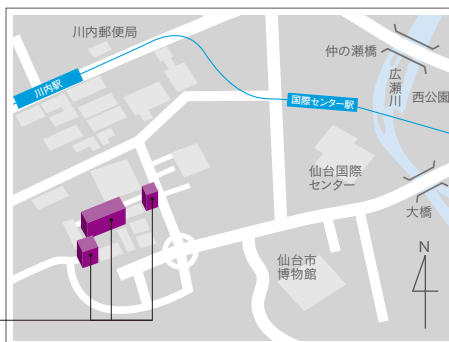


●川内キャンパスへのアクセス

🚇 仙台市地下鉄東西線利用

- 地下鉄東西線  
仙台駅から川内駅(6分:210円)  
川内駅南2出口から文学研究科(徒歩約5分)
- 地下鉄東西線  
仙台駅から国際センター駅(5分:210円)  
国際センター駅西1出口から文学研究科(徒歩約6分)

※所要時間は交通状況等により異なります。



東北大学  
文学研究科

## 東北大学大学院 文学研究科

〒980-8576 仙台市青葉区川内27番1号  
TEL.022-795-6005(教務) 022-795-6003(総務)  
FAX.022-795-6086

東北大学大学院文学研究科についての詳しい情報は、ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.sal.tohoku.ac.jp>

東北大学大学院 文学研究科

検索



このフレットは環境に配慮した「水なし印刷」により印刷しております。



環境にやさしい植物油インキ「VEGETABLE OIL INK」で印刷しております。